

2016.9/8 ▶ 9/13

# 鶴田 晴彦 カリカチュア 寄紙細工展 ムーシュ博士の部屋




\*画像・イラスト等の保存・転載・無断利用は禁止します\*

今週の展覧会は鶴田晴彦先生によるカリカチュア寄紙細工展です。会場には『完璧な人間を造りだしてやろう』と精を出す主人公ムーシュ博士の物語に登場する人物達が展示されました。作品はテープや糊などを使用せず、紙を曲げ組み合わせて制作されています。そのため、顔の皺や口元などの表情もゆたかにありそれぞれの個性がとも魅力に溢れ、また物語や解説を読みながら作品を見る事が出来るので、先生独自の世界感に引き込まれてゆきます。

登場人物の中にはムーシュ博士によって造り出されたものや、助言をしてくれるもの、また博士の発明を利用してしようとする怪しいもの達など、様々なシーンを再現されています。物語は【完璧な人間】を造りだそうとする博士が、紐で縛り繋げて組んでいくところから始まります。すると、色つき鳥の『カラス』がやって来て、アドバイスをします。ここで博士は完璧な人間造りに近く一步を踏み出すのでした。果たしてムーシュ博士は【完璧な人間】を造り出す事が出来たのでしょうか…。

次に物語は研究室へとつづります。そこで博士は、コノヨのエネルギー問題を解決するために『IMI内燃機関』を発明していました。IMIから排出された電波などでねずみ達が超能力者になってしまったり、変身をしてしまいます。そんな中、ねずみたちを保護するための発明品が活躍します。それはねずみとヒトが共存するためのホカク器『勝手にkatze』でした。最後に、発明をしていた『IMI内燃機関』を利用してしようと怪しい人物達が博士の前に登場します。大地下商店街の首長『ヤベー・ワリオ』と『タネ火売りの男』でした。博士の発明した夢のエンジンは無事に起動出来たのでしょうか。



この世を憂う発明家

或るところにムーシュという博士が居りました。  
ある日彼は『完璧な人間を造りだしてやろう』と  
紙人間造りに精を出し始めました。

ムーシュ博士

## 博士の発明品



IMI内燃機関

人の心まで動かす…  
夢のエンジン



勝手にkatze

自動ねずみホカク器!  
中はとても快適

## 登場人物

怒鳴るド！ラット！

身体は小さいが  
かなりのビックマウス  
ヒトと対抗するための  
大きな壁を築きます



タネ火

地獄の亡者のハラワタの  
恨み・憎しみ・怒りで  
果てしなく燃え続ける  
災いの火タネ



カラスー

完璧な紙人間造りに  
没頭する博士に助言をする  
キ・クロウがたえません



ヤベー・ワリオ

博士の発明を利用してしようとする  
『3本の矢？お望みなら  
3万本でも打ち込んでみせますよ』

